

大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）の開設に向けて

大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）開設まで一年となりました。

新センターでは、市南部医療圏域における周産期母子医療センターの役割を担う機能確保、救急を含む小児医療の充実といった小児・周産期医療提供体制の拡充のために、母体・胎児集中治療管理室（MFICU）や新生児治療回復室（GCU）などの機能を整備します。

これまでの「医療の質の向上」をめざしてきた当センターでの取組を、一段階グレードアップし、さらに充実した周産期母子医療を提供したいと考えております。

そのためには優秀な医療スタッフの方々（医師、看護師、助産師、医療技術職等）の参画が必要です。

以下の具体的な体制拡充と行動目標を掲げておりますので、ご賛同いただける方は、是非、一緒に素晴らしい医療を実践しましょう。

産科病床は、新たに MFICU 6 床も加わり、46 床となります。

新生児科を新設し、周産期医療におけるハイリスク症例に対応できるよう、新生児集中治療管理室（NICU）9 床、GCU 12 床を整備します。

小児科は、一般 50 床に高度治療室（HCU）8 床を加え 58 床になります。

また、下記の 5 点に留意し、きめ細かなケアをお届けしたいと思っております。

- 1) お産で入院された妊婦さんを一人にしない『One to One ケア』を行い、安全・安心で、満足のできるお産をめざします。
- 2) 安全なお産のために、24 時間、医師と助産師が協働し均一なケアを提供します。
- 3) 母と子、その家族にとっての幸せをめざし、安全・安心な妊娠経過、分娩、育児ができるように、産科医、小児科医、看護スタッフ、他の医療スタッフが連携してサポートいたします。
- 4) 助産師主体で行っている助産師外来では、妊婦さん一人ひとりとリラックスした雰囲気の中で話ができます。
- 5) 上記ステップを経て、将来的に院内助産が可能な体制を整備していきます。

なお、新設する新生児科では、本年 4 月より、これまで大阪府立母子保健総合医療センターの新生児科主任部長を務められてきた北島博之氏を顧問として招聘し、最先端の新生児医療とともに、分娩前のお母さんの子育てに関する疑問に答える母親教室を始めます。

また、2 週間（半月）健診では、皆様の専門的なご質問にお答えすることも可能となります。

平成 29 年 3 月吉日

総長 後藤満一

病院長 福並正剛